

季刊・オーディオ アクセサリー

Audio Accessory

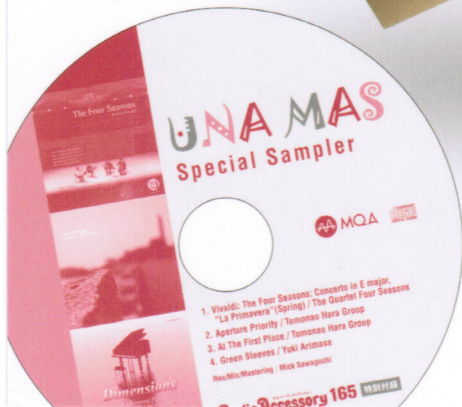
クオリティアップを目指す全てのオーディオファンへ!

本誌厳選の注目製品、そのサウンドを徹底チェック

グレードアップ・ケーブル スクランブルテスト

本当の意味での「ピュア」を追求する

夢のクリーン電源システム 世紀の一斉比較



特別付録
雑誌付録として世界初の試み!

UNA MAS
Special Sampler **MQA-CD**



A A誌の注目記事は
WEBでも楽しめます!

2017 SUMMER **165**

英国製のスマートなアンプで バイアンプに挑戦する



CREEK

EVOLUTION 100A

プリメインアンプ
¥370,000(税別)

Text by 石原 俊
Shun Ishihara

Photo by 田代法生

Profile : イギリスの老舗ブランドCREEK(クリーク)。薄型の筐体を採用したシンプルなデザインの「EVOLUTION」は、同ブランドの主力シリーズである。ここでは同シリーズのプリメインアンプのトップモデルEVOLUTION 100Aがテーマ。オプションのボードを用いることで、アナログレコードからハイRezソースまで対応できる拡張性の高さ、パワーアンプを追加してのバイアンプ駆動の能力までを検証したい。



EVOLUTION 100P

パワーアンプ
¥290,000(税別)

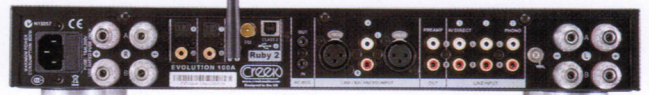
Specifications

<EVOLUTION 100A> ●出力:110W/ch(8Ω)、170W/ch(4Ω) ●最大供給電流:±26A/0.5Ω、50mS ●歪み(THD):<0.002% 2/3 rated power 8Ω ●周波数特性:10Hz~100kHz±2dB/Line、10Hz~50kHz±2dB/Blanced ●利得:×46(33.3dB)/Line、×22.5(27.0dB) ●入力感度:410mV ●クロストーク:-80dB at 1kHz ●SN比:>102dB ●セパレーション:>80dB@1kHz ●消費電力:最大500W、待機20W ●サイズ:430W×60H×D280mm ●質量:9kg ●仕上げ:Silver(標準)、Black(受注生産+¥15,000)

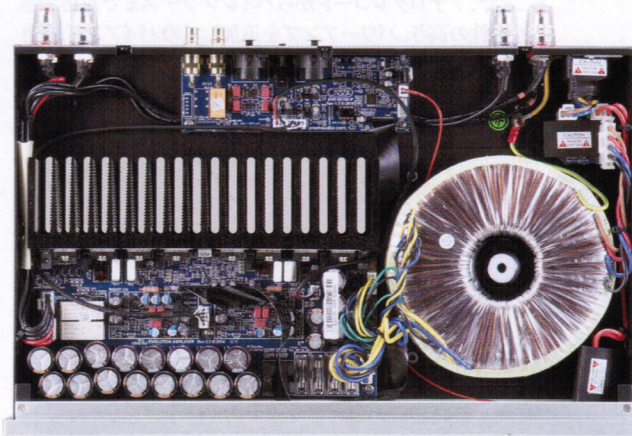
<EVOLUTION 100P> ●出力:110W/ch(8Ω)、170W/ch(4Ω) ●最大供給電流:±26A/1Ω、50mS ●歪み(THD):<0.002% 20Hz~20kHz ●出力インピーダンス:<0.05Ω @ 1kHz ●SN比:>102dB ●周波数特性:10Hz~100kHz±2dB/Line ●利得:×46(33.3dB) ●入力感度:650mV ●クロストーク:-80dB at 1kHz ●セパレーション:>80dB@1kHz ●消費電力:最大500W、待機<20W ●サイズ:430W×60H×D280mm ●質量:9kg ●仕上げ:Silver(標準)、Black(受注生産+¥15,000) ●取り扱い:(株)ハイ・ファイ・ジャパン



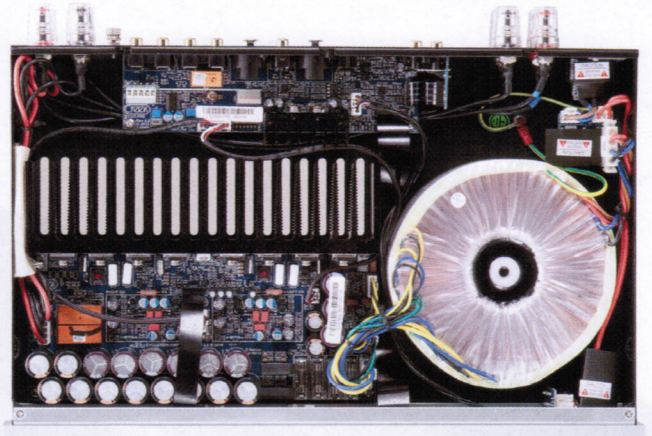
EVOLUTION 100Pのリアパネル。アナログ入力にはRCAとXLRを装備し、プッシュボタンで切り替える方式。スピーカー出力は2系統



RUBY DAC 2を搭載した状態のEVOLUTION 100Aのリアパネル。フォノカードを内部に装着すると、3系統のRCA入力のうち1系統がフォノ入力となる



EVOLUTION 100Pの内部。パワー段は100Aと同等



100Aの内部。大型のトロイダルトランスを搭載し、電源が強化されている

ベーシックシリーズの トップモデル

クリークのEVOLUTION 100Aと100Pをハンドリングする機会を得た。

クリークはイギリスのオーディオ・エレクトロニクス・メーカーだ。創業者のマイク・クリークがプリメインアンプの一号機、4040を発表したのは1981年のこと。以来「ローコスト・ハイパフォーマンス」という設計思想を掲げ、一貫して常識的な価格の高性能機を市場に供給してきた。

EVOLUTIONは同社のベシックなラインを構成するシリーズである。100Aはプリメインアンプの上位モデルだ。終段の二段ダリントン回路は弟機50Aの倍の4回路で、バイアスは通常のAB級とはやや異なるG級という方式を採用している。この方式の回路は低い信号レベルで動作すると電源電圧が低くなるので、AB級よりも効率が良く、発熱が少ない。一方、100Pは事実上100Aのパワーアンプ部を単体化させたものだ。

EVOLUTIONシリーズのプリメインアンプのためのオプションは豊富で、フォノカードやU

SB DACモジュールのRUBY 2 DACが用意されている。RUBY 2 DACはスケレモノで、光同軸、USB入力を装備しているのみにならず、ブルトウースでスマートフォン等とワイヤレス接続が可能だ。今回の試聴ではMC専用フォノカードとRUBY 2 DACを装着した個体を用いた。

滑らかな聴き心地に 身をゆだねる

まずは100AをCDプレーヤーと接続して聴いた。至って普通な音である。オーディオ的な性能は世界基準的にみて中庸といつていい。周波数レンジがびつくりするほど伸びているわけでもなければ、音場が飛びぬけて広いわけでもなく、情報を穿り出すようなデテールの再現性があるわけではないのだが、音楽に耳を傾けるのが楽しく、和んだ気分になってくる。ウィークデーの夜に小音量で疲れを癒したり(トーンコントロールがつけられているので低域と高域を補強するとい)、ウィークエンドにのんびりと聴いたりするのに、このサウンドはうってつけだ。音楽的な介入はどちらかというと行なうタイプで、情報の取捨選択をする部分もある。しかしながらこの

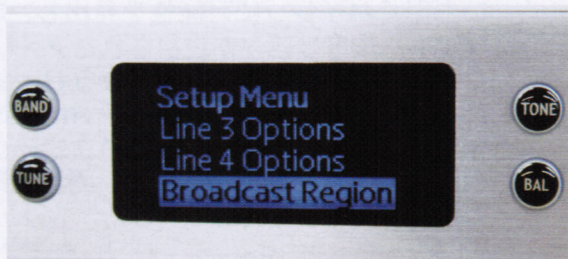
滑らかな聴き心地に身をゆだねるのは一種の快楽だ。

ジャズは良く弾むベースの低音と華やかなピアノとドラムスの動きに乗って、ゴキゲンなプラスのメロディが展開する。こういう音を聴かされると、試聴であることを忘れ、ウイスキーのグラスを傾けたくなってくる。ヴォーカルは音像のサイズが程よく、声の質感に健康的なエロティシズムが感じられる。スピーカーケーブルのある種の高級品にすれば、もつと清楚な印象が得られるだろうが、個人的にはこのくらいが好ましい。クラシックは能動的に聴くとかなりの情報量が得られるが、聴き流しても音楽的に重要なポイントを押さえられているので、充実感のある聴き心地が得られる。

アナログからハイレゾまで オフションのボードで対応

ここでメディアをLPにチェンジした。LPはカートリッジの特質によってサウンドとミュージカルリテイが大きく変動するので一概には言えないが、クリークのフォノカードは堅実な作りなので、アナログらしい豪快な低音やノリの良いグルーブ感が得られることは保証しよう。ただし、フォノカー

和み感のあるミュージカリティが
 支配的な楽しい聴き心地である
 聴感上のSN比が驚くほど高い



チューナー機能のあるボードを使用する際は、メニューからFMのリージョン設定を行う必要がある



100Aに付属のリモコン

EVOLUTIONシリーズ オプション

<フォノカード>

SEQUEL 40 MK2

¥28,000 (税別)

●適合カートリッジ:MM型3.5~5mV出力●利得:×100 (40dB)●周波数特性:10Hz~20kHz±0.5dB●SN比:-80dB●R1AA偏差:±0.5%●出力:400mV (4mV入力)●入力感度:4mV/47kΩ/220pF●歪み (THD):<0.03%

SEQUEL 48 MK2

¥35,000 (税別)

●適合カートリッジ:MC型、MM型0.9~2mV出力●利得:×250 (48dB)●周波数特性:10Hz~20kHz±0.5dB●SN比:-72dB●R1AA偏差:±0.5%●出力:400mV (1.6mV入力)●入力感度:1.6mV/47kΩ/220pF●歪み (THD):<0.03%

SEQUEL 54 MK2

¥35,000 (税別)

●適合カートリッジ:MC型0.5~1mV出力●利得:×500 (54dB)●周波数特性:10Hz~20kHz±0.5dB●SN比:-73dB●R1AA偏差:±0.5%●出力:400mV (0.8mV入力)●入力感度:0.8mV/120Ω/1,000pF●歪み (THD):<0.03%

<FM/AMチューナーモジュール>

AMBIT

¥29,000 (税別)

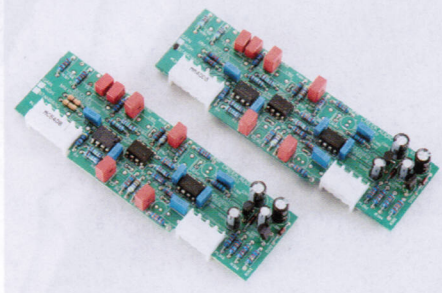
●受信周波数帯域:FM/76~108MHz (バンド設定要)、AM/520~1710kHz MW●プリセット:FM/AM >100●選局:手動/自動●FM感度:-3.5dBuV 26dB audio & max RF gain●周波数帯域:FM 30Hz~16kHz-1dB●歪み (THD):<0.05%●ステレオセパレーション:FM >40dB●SN比 (FM):>70dB (Full limiting) Stereo

<DAC/FMチューナーモジュール>

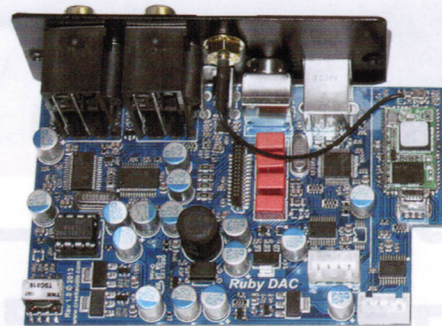
RUBY 2 DAC

¥97,000 (税別)

●サンプリング周波数/量子化ビット数:192kHz/24bit●デジタル入力:光TOS×2、RCA同軸×2、USB、Bluetooth●DAC:Wolfson WM8742 24bit 192kHz●SN比:>125dB (stereo at 48kHz)●THD:<0.001% 48kHz●FMチューナー:周波数/76~108MHz (バンド設定要)、プリセット100局、受信感度-3.5dBuV、周波数特性30Hz~16kHz-1dB、THD <0.05%、セパレーション>40dB、SN比70dB stereo



フォノカードのSEQUEL 54 MK2 (写真左)と SEQUEL 40 MK2 (写真右)



DACボードのRUBY 2 DAC

ドが指定する範囲の出力電圧の得られるカートリッジを必ず使用していただきたい。

次に、EVOLUTION 100Aに装着したRUBY 2 DACのUSB入力にサーバーを接続して聴いた。CDクオリティの音質はCDプレーヤーとほぼ同じ音である。一方、PCM 192kHz/24bitのハイレゾ音源では、情報量がナチュラルに増加し、良好なディテールの再現性が得られた。それでいて本機の基本的な聴き味である和み感は失われない。

100A+100Pでバイアンプ駆動に挑戦

最後にシステムにEVOLUTION 100Pを加えた。実はこれが今回の取材の目玉なのである。本来、100Pは音量調整機能つきのデジタルプレーヤーEVOLUTION 100CDと組み合わせることを意図したモデルだが、100Aとゲイン比も出力も変わらないことから、両者を組み合わせるとバイワイヤリング対応のスピーカーをバイアンプ駆動することができるとある。バイアンプ駆動を行う際はスピーカーの入力端子のジャンパー線を外す。100Aのプリ出力を100Pに入力

し、100Pの出力とスピーカーの片側の入力端子を、100Aの出力端子とスピーカーのもう一方の入力端子をそれぞれ接続する。音が鳴った瞬間、椅子からずり落ちそうになった。基本的には同じ傾向の音ではある。和み感のあるミュージカリティが支配的な楽しい聴き心地である。しかしながらオーディオ的なパフォーマンスがまるで違うのだ。聴感上のSN比が驚くほど高い。低音の伸びも増して、しかも単に低音がよく出るだけではなく、ウーファーがガツツリとグリップされているような印象なのだ。情報量も増えている、100A単体使用時よりもディテールの再現性ははるかに高い。このサウンドは100万円超クラスのセパレートアンプを凌駕しさえしている。

ではなぜバイアンプ駆動すると良い音が得られるのか。パワーに余裕が生じるから、というのが常識的な答えであろう。しかし、それもさることながら、スピーカーの逆起電力の分散によって終段素子が抵抗になりにくくなるから、というのが筆者の見解だ。ともあれ、バイアンプ駆動へのグレードアップの有効性を改めて確認することができた今回の取材であった。

CREEK

Simple is the Best

Made in England



--- Creek Audioの創立者、マイク・クリークの、基本理念がここに 있습니다。創立40周年の、インテグレイティッドアンプの集大成として、Evolution シリーズは、誕生しました。

Evolution Series

Evolution 50CD DAC & CD Player ¥203,000/税別
Evolution 100CD DAC/CD/Pre-amp ¥290,000/税別
Evolution 50A Integrated Amplifier 55W 8Ω AB級 ¥167,000/税別
Evolution 100A Integrated Amplifier 110W 8Ω G級 ¥370,000/税別
Evolution 50P Power Amplifier 55W 8Ω AB級 ¥150,000/税別
Evolution 100P Power Amplifier 110W 8Ω G級 ¥290,000/税別
www.creekaudio.com / www.hifijapan.co.jp